婦人衛生雜誌

大正五年十二月二十日發行

第三百二十五號

婦人衛生雜誌

第三百二十五號目次

謹　告

本會の大正六年新年會は來る一月二十七日(第四土曜日)午後一時より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校内に於て開催致す事に相成候間此段御通知申上候

當日は**總裁宮妃殿下御臨場**あらせらるべく、**醫學博士二木謙三氏**の衛**生講話**並に餘興として**早川貞水**の講談等有之筈に候へば何卒會員諸姉の奮て御出席あらんことを

大正五年十二月

私立大日本婦人衛生會

天籟道人 關以雄君著

衛生年契

全一冊

一部金參拾五錢
郵税金四錢

本書ハ衛生史家トシテ又衛生事項考證家トシテ多年斯界ニ健筆ヲ揮ヒ朝野ノ間ニ立チテ衛生ノ普及發達ニ努メ今尚孜々筆舌ニ遑ナキ天籟氏ガ史乘ヲ漁リシ際ノ隨筆ナリシモノ遂ニ集メテ德川氏時代ニ於ケル衛生的年代記ノ如キモノトナリシナリ溫故知新ノ好材料衛生進歩史ノ良津梁、本會請フテ之ヲ印刷ニ附シ以テ篤學ノ士ニ頒ツコトトセリ希望ノ諸氏ハ速ニ本會ニ申込マレタシ

大阪東區高麗橋西詰

發行所 大阪府衛生會

電話本局一一五番

婦人衛生雜誌第三百二十五號
（大正八年十二月二十九日發行）

講演

虎列剌病に就て

醫學博士　芳我石雄

皆さんは戰爭の恐ろしいことは十分御承知でありませう。日淸戰爭と云ひ、日露戰爭と云ひ、或は日獨戰爭と云ひ是等の戰爭に於て皆さんは非常な恐怖の念を懷いて居られたことゝ信じます。戰爭は何故に怖わいのでありませうか恐つかない理由の中には戰があると國家の存亡に關する卽ち國が滅びるやうなことがありはせぬかと云ふ心配もあるでせうが併し其直接の原因は死を恐れるが爲の樣に考へられます。

一體死と云ふものは啻に戰爭の場合にのみ來るものでありませうか申すまでもなく左樣でないのであります。戰爭の時は死ぬるのは大體から申して極て僅なもので、日淸戰爭にしても日獨戰爭にしても此等の戰爭で死んだ人の數と云ふものは殆んど論ずるに足りない。日本に於て最も大なる日露戰爭の如き場合にも本統に鐵砲の彈丸に中つて死んだ人は僅々四五萬人位なもので病死其他を入れても十萬を越へないのであります。

然るに吾々の日常生活に於て常に目擊しつゝある病氣に因つて死ぬる者の數は到底前者の比ではないのであります。吾々生ある者は總て一度は死なゝければならぬのでありますが、是が自然の壽命を保つて後であれば又已むを得ない處でありますけれ共、其多くの者は病の爲に不自然の死を遂げて居るのでありまして、若し之れを防ぐ事が出來ましたら人間の

幸福之れに増すものはないと考へます。病氣の中でも最も怖るべきものは傳染病でありまして、其中の例へば結核の如きは之れ丈けで年々約十一萬人の人間が斃れつゝあります。即ち日露戰爭の時はあれだけの大戰爭であつたにも拘はらず戰死者及病死者を併せても僅に年々結核によつて斃れつゝある人の數より少ないのであります。それから又啻に結核のみならず是は何時でもある譯ではないのですが時々流行するところの急性傳染病例へば虎列刺の如き病に由つて斃れる者の數は流行時に於ては非常な數に達するもので到底戰爭の慘禍の比ではありません、昔は是が爲に三十萬人、五十萬人と云ふ風に短時日の間に死んだものであります。然るに人は戰爭と言へば戰慄する程怖れるに拘はらず、日々遭遇しつゝある病氣に對しては割合に恐れないと云ふのは如何も其理由が解らないのであります。以前には盲目蛇に怖ぢずと云ふ樣な譯で、何も知らぬ爲に怖れなかつたのでありませうが、今日の人智の發達衛生思想の進歩に於て何も知らぬでは餘りに不見識な譯ではありませんか、虎疫流行の時に際し本會の特に此點に注目されて之に關する講演を求めらるゝは誠に時機に適したる事と存じます。虎列刺菌はローベルト、コッホ先生の發見に係り丁度ノ（コンマ）の樣な形をして居るので又「コンマバチルス」とも申します。

本菌は乾燥（二時間位）熱（風呂の湯にて三十度位）日光酸等に對し極めて弱く之に反して濕氣の有る處冷い處では可成強いのであります。例へば水の中否氷の中にあつても非常に長い間生きて居ります。日本に虎列刺が始て入つて來ましたのは今より約九十四年前西暦千八百二十二年に印度の方から支那を通つて日本に入つて來たのであります。元來虎列刺は日本には無いのでありますが、それが年々外國から輸入されます。印度には常に虎列刺の流行がありますから多くは同地より來ります。今年流行の虎列刺は南洋マニラ邊から來たのであることは確かで一

方には布哇丸によりて横濱に來り、他方には他の船によりて長崎に輸入されました。我國に最初の流行は千八百二十二年でありましたが、其次に二度目に來ましたのは今から五十八年前で、此時には非常な流行がありまして、初め長崎に流行つたのが東海道を經て東京に入り、非常な勢で擴がりました、其時分には戸籍などはないから充分には明りませんが、當時東京の寺で葬られた死人の數丈けでも七月二十七日から九月二十三日まで約五十五日間で三十萬人以上に達して居ります。其後年々虎列剌はありまして殆んど之れの無い年はありません。今度の流行は何の位あるかと思つて調べて見ましたが、恰度昨日までの統計が日本全體で九千八百六十七人、東京丈けでは四百五十九人あります。今年の流行は昔のと較ぶれば極めて少ないので餘り驚く程の事もないのであります。

我國昔時に於ける虎列剌流行當時例へば九十四年前或は五十八年前の頃には虎列剌を妖怪變化が仇を爲るのであると云ふやうに考へて専ら加持祈禱を行ひ、禁厭をなし神を信心して之を除けやうと力め何等消毒豫防等を行はなかつたものでありますから、病氣は非常な速力を以て傳播したものであります。然るに近時衛生思想の發達と共に豫防法が講ぜらるるに至り只今では昔時の如き大流行は全く跡をたつに至つたのは誠に喜ぶべき事であります。併し虎列剌病なるものは元來野蠻病と目せられて居る位でありますから、我國に於て尙虎列剌の流行する間は歐洲諸國に對して尙醫學の進歩をほこる譯には參らぬのであります。

そこで虎列剌に罹つた場合には何う云ふ風になるかと云ふ事は無論醫者の知るべきものでありますから詳しくは申上げませぬが少しは御承知であつた方が宜からうと思ひます。

虎列剌に人が罹つた時一番先きに起るのは腹痛、下痢、嘔吐であります。續いて患者は非常に渇を感じ尿が出なくなり。急に元氣が衰へ、聲がかれ、手足

が冷めたくなつて體溫を量つて見ると普通の人より低く三十五度位になります。併し口中や肛門なぞで計ると身體の中は非常に熱く、三十九度とか四十度位あります。死にますのは極く早い場合には四五時間長くつて三四日、大抵二三日であります。併し病の輕い場合は次第に症狀が無くなつて一週間もすると癒るのであります。是は普通の虎列剌の場合でありますが、最も重いのになると下痢もなく吐氣もなく唯急に氣力が無くなつて二三時間の間に死んでしまう事があります。之は菌の毒力が餘り強いため、色色な症狀を起すに至る前に中毒を起して死するのであります。

虎列剌菌が吾々の體內に入れば必ず虎列剌に罹るかと云ふと必ずしもさうではありません。吾々の體は自然的に傳染病を豫防する力が有るので殊に虎列剌菌に對しては其力が強いのであります。

昔から口は禍の門と云つて居りますが、虎列剌に於て殊に然りで、全く口の不養生から感染するのであります。吾々の胃の中には胃酸がありまして少し位の虎列剌菌が入つても普通之を殺して呉れるのでありますが、暴飲暴食其外不養生をする時は胃では胃酸の分泌が減じ、腸では腸加答兒を起して居り、斯かる場合に若し虎列剌菌が侵入すると胃の中で之を殺す力が無いから直ぐと腸に行く、腸の中には腸加答兒があつて丁度虎列剌菌を歡迎して居るやうな體になつて居るから菌は腸の中でどし／＼繁殖して澤山の毒を造り遂に發病するに至ると云ふやうな形になるのであります。併し又人には各々抵抗力の差があつて或人は虎列剌に對して抵抗力が強く又或人は弱いと云ふことがあるから人に由つて之に罹る人と罹らぬ人とがあります。抵抗力が強い場合には虎列剌菌が侵入しても之に感染しなかつたり、或は感染しても其病的症狀極めて輕く僅の下痢卽ち腸加答兒位の症狀で經過して仕舞ふのであります。虎列剌流行の際最も恐ろしいのは斯う云ふ風に虎列剌菌を有しながら虎列剌症狀を起さない所謂保菌者でござ

います。
次に虎列刺は何處から何う云ふ風に吾々に感染するかと云ふ事をお話し致します。虎列刺菌は何處にでも居るかと云ふに、さう何處にでも居るものではありません。其主なるものは虎列刺患者の大便と嘔吐物中であります。虎列刺患者の便は初めの間は普通の色を呈して居りますが後には米の磨汁のやうな白色水様となります。それから吐きます物は初めは食物の殘りでありますが後には吐くものがなくなり。全く水様で、後には膽汁の爲めに多少黄味を帶びて居ります、以上の吐瀉物には無數の虎列刺菌が居るのでありますから之れの附いた物は總べて非常に危險であります。第一虎列刺患者の手足身體は勿論、患者の衣服患者の周圍にあつた寢具、食器其他總べて患者の周圍にありましたものは、患者が觸れ或は吐瀉物のとばしりがついた恐がありますから、非常に危險であります。併し虎列刺菌は空氣中を飛廻はつては居りませぬから只患者とすれちがつた位で傳染するものではありません。次に恐るべきものは保菌者即ち虎列刺菌を有つて居りながら虎列刺の症狀を呈しないものであります。以前の虎列刺流行に際し非常な勢を以つて傳染を逞うしたのは詰り此保菌者なる者に氣付かなかつたからであります。其當時は唯虎列刺の症狀を呈せる患者をのみ隔離して傳染を防がうとしたのでありますが、今度は一人の患者が出來ると、其周圍の者全部を隔離して其人達の大便を取りまして、病菌を有つて居る人ではないかと云ふことを調べます。若し斯の如人が健康者の中に立交つて往來して居たら、其危險なる事は申す迄もありません。未だ其外に怖ろしい者があります。それは自分の體に黴菌を附けて、吾々の食卓の上に飛んで來るところの蠅であります。蠅は虎列刺菌を含有して居る汚物の上にとまり其脚、翅等に菌をつけた儘で何處へでも飛び廻り、吾人の食卓に來り食物に菌を殘して行きます。其他電車の釣革、淺草などにある。お賓盧頭様等何でも多くの人の觸るゝ物

は總べて傳染病の媒介物となるのであります。虎列剌は斯く恐るべきものでありますが、注意さへすれば容易に防ぐ事が出來るのであるから、必ずしも恐怖する必要はないのであります。例へば吾々醫師は毎日虎列剌菌の中で研究をし又患者の治療に從事して居るのでありますが、常に注意を怠らないから少しも危險を感じません。然らば如何にすればよいかと云ふに、此病氣は全く口より侵入するものでありますから口に注意すればよいのであります、虎列剌菌の附著せる物を食す可からざるは勿論、不潔な物に觸れた儘で手を洗はずに食事をするなどは最も危險であります。虎列剌流行時に於て生の食物例へば刺身、生豆腐等を食するは大に戒むべき事であります。魚類には時に虎列剌菌が附著して居る事がありますが煮てさへ食すれば大丈夫であります。其他何でも煮た物さへ食して居れば大丈夫であります。水の如きも海水、河水、井水等には屢々虎列剌菌が含まれて居りますから生の儘で飲む可からざるは勿論、之れにて物を洗つても危險であります・之に反して水道の水は大丈夫であります。されど之れとても飲む時には一度熱したものを用ゆる方が安全であります　電車の釣革、其他衆人の觸れる物に觸れた時には必ず手を洗ふが宜しう御座います。何れにしても一般に食事前には一度手を洗つた方が宜しく、夫れには千倍の昇汞水なれば上等ですけれ共、必ずしも昇汞水でなくても石鹸でも宜しう御座います。夫れから蠅を驅除せねばならぬ事は前に申し上げた通りで、又暴飲暴食其他胃腸を害さない樣に注意せねばなりません。

以上は積極的に虎列剌菌を自分の傍に寄せつけぬと云ふ方法でありますが、如何に注意するも目に見えない虎列剌菌の事でありますから、何時近付かないとも限りません。此場合に於て虎列剌菌の來襲に遇ふも之れに感染しない樣に防禦する力を高める方法があります。夫れは近來流行して居る豫防注射であります。之れに血清注射と「ワクチン」注射と兩法が

ありますが、普通「ワクチン」注射を致します、虎列刺「ワクチン」とは殺した虎列刺菌を食鹽水で稀釋したもので、之れを注射すれば虎列刺菌の毒に對して之れを中和する物質が體内に出來て、虎列刺菌の來襲に逢ふも之れに感染しないのであります。併し此豫防力は殘念ながら絶對的のものではないので、例へば注射せぬ人が四人虎列刺に罹れば注射した人は一人位で濟むと云ふ風に、注射をすれば餘程虎列刺に罹る場合が少くなるのでありますが、注射したからとて絶對的に罹らぬと云ふ譯ではありませんから油斷をしてはなりません。併し豫防注射をやれば大低は大丈夫なのであります。又「ワクチン」に二種類ありまして普通「ワクチン」と感作「ワクチン」と云ふのがありますが、之れは其製法に多少の差がありますが、其效力に至つては先づ兩者大差ないと見るが公平な見方だらうと思います。新聞などでは色々批評致して居りますが、何れにも一得一失ありて、結局大差ないのであります。此「ワクチン」を注射しますと、時に多少發熱頭痛等反應がある事がありますが別に心配する事はありません、若し反應の烈いのを恐るゝ方は二回注射の代りに少量づゝ三回に分けて注射してお貰ひになれば餘程輕い樣であります。

叢談

溫泉療法の話

醫學士　篠原昌治

年末から年始に懸けては避寒に御旅行なさる方が少くありません、而して吾邦では避寒と云ふ場合には多くは溫泉地に行かるゝ樣であります、然し湯治に行くは平常は身體虛弱なる人か又は病後の衰弱のある人或は身體に何等かの病氣のある人が多くありま

すれど、此時期はそれと反對に平素極めて繁劇の業務に從事して居らるゝ人が小閑を利用して溫泉に趣き、淸玲玉の如き溫湯で日頃の疲勞を洗ひ流し、新らしき年を迎ふると共に新しき元氣を養成し以て――益〻其職務に奮鬪しようと云ふ様な考への人が多い様であります。

溫泉が諸種の疾病に對して效驗を有するものであると云ふ事は往昔よりよく知られて居る事實であります、而してその溫泉なるものは如何なる成分を有するものであつて、夫れに入浴すれば如何なる效力があるか、又如何なる種類の病氣に對しては何れの溫泉が適應するかと云ふことを知る事は極めて必要の事と存せられます。夫故たとへ其目的には多少相違して居りまして、多くの人々の足が溫泉場に向ふ時季が目前に逼つて居りますから、今度に溫泉療法の御話を申し上げるのも萬更無益の事ではないかと存じます。

我國には溫泉の數が極めて多く、殆んど到る處に浴場が設けられて居りまして、それには四季を通じて多くの人が湯治に集まつて居られます、其浴場及浴客の種類は極めて多種多様でありまして、箱根、伊香保などの様に立派な旅館が軒を並べ、主として貴顯富豪をのみ迎ふる處もありますし、又片田舍の浴場でありますれば、旅舍は多くは木賃と唱へて室代・飯炊料を徴收するのみで、農家の人などが田地の植附けが濟めば米、味噌、夜具などを耕作用の馬脊につけ、一家擧つて湯治場に行つて、平素激しき勞働の苦勞を忘るゝ處もあります。夫故吾邦に於ける湯治場は最も、國民的の療養所であり且慰安所でありまして、上下貴賤の別なく此天惠に浴する事の出來るのは、恰も中空に懸る皎々たる月影の玉の臺も賤が伏屋も同様に照す様なものかと思はれます。

溫泉は斯くの如く廣く利用せられて居りますけれど、浴客の多數が溫泉なるものが衞生上如何なる關係を有するものかと云ふ事を深く考へて行かるゝのではなく、漫然溫泉は人體の健康上有效なものであ

ると信じ、好んで之に赴くものでありまして、從つて多くの溫泉場に於きましても特に衞生上の設備などをすると云ふ事もなく、醫人に於てすらも深く溫泉の事に就て研究せらるゝ人は極めて少數であります。

溫泉と申しますれば、文字の示すが如く其溫度は土地の氣溫より高くなければならぬ譯であります。それでは何程の溫度を有するものを溫泉と云ふかと申しますに、それは氣溫より少しでも高ければ差支ないのでありますけれど、普通は攝氏二十五度以上のものを溫泉と申します。然し土地より湧出する水分の溫度は少しも溫かでなくとも、其中に他の溫泉の水分中に含む樣なもの、例へば硫黃、鐵其他のものを含んで居りますれば之を冷泉と稱し、それに人工的に一定の溫度を加へて衆人の溫浴に供して居りまして、斯る場處も一般に溫泉場と唱へられて居ります。

溫泉を其水分中に含有する化學的成分によつて分類しますれば、種々なる種類がありますけれど、先づ次の如きものであります。

(一)淡　泉
(二)硫黃泉
(三)鐵　泉
(四)食鹽泉
(五)亞爾加里泉

淡泉とは其千分中に含有する固形物質の量が一瓦以下で、通常の水と異なるは、その少量の固形分が大部分石灰鹽及び「マグ子シウム」鹽でありまして、其他多量の炭酸を含んで居るものであります。其他のものは其溫泉中に含有する主要なる成分に就て分類したものであります。夫故例へば硫黃泉と申しましても其中に鐵、食鹽等も含有して居ることもありますけれど、其分量が少ないものであります。

然しこれは唯溫泉中に含有せる主に成分だけを擧げたものでありまして、溫泉の中には此以外に種々なる成分を含有して居ることは申上げる迄もないこと

であります。

溫泉は其中に含有する化學的成分が非常に相違して居ります如く、其溫度に於きましても各場所によつて甚しく相異なつて居りますけれど、同じ泉源より湧出するものは常に同じ溫度でありまして、普通の洗湯の様に時々刻々に溫度の異なることのないと云ふことは、入浴者にとつて最も愉快に感ずるところであります。

溫泉が如何にして人體に効果を來すものであるかと云ふことに就ては種々の說がありますけれど、多分溫泉中に含有せらるゝ少量の鹽類が分解して或特別な作用をなすものと考へられます。溫泉中には瓦斯様のものを含有して居りますけれど、それは損傷なき皮膚より吸取せらるゝものではありませんから、其作用は單に皮膚に刺戟を與ふるに過ぎないものであります。而して炭酸瓦斯は殊に皮膚に烈しき刺戟を與ふるものであります。

溫泉中に含有せらるゝ鑛物質に特別な効果があるか否かと云ふことはよく解つて居りません。然し或種類のものは表皮の角質を溶解する作用を有するものでありまして、其他是等のものが皮膚に附著して神經の末端に刺戟を與ふることもありませす。

其他近來、溫泉中に含有せらるゝ「ラヂウム」は著しき効果を有する様に說く人がありますけれど、一般に溫泉中に含有せらるゝ「ラヂウム」は其量少く從で其れが何程の効力を有するかと云ふことも未だ充分解つて居りません、殊に近頃市中の洗湯に「ラヂウム」湯などゝ云ふ看板を揚げた處がありますが、それは浴客の爲には何等の利益もないことゝ存じます。

斯く申しますれば、溫泉浴の効果が極めて薄弱なものと云ふ様に聞ゆるかも知れませんけれど、決してそう云ふ意味で申上げたのではありません。唯溫泉の内に含有する化學的成分が如何に作用するかと云ふ點に就て申上げたのでありまして、溫泉そのものの長き實驗によつて確められたる効能に就ては、今

更何等の疑點を挾さむ必要もないことゝ存じます、殊に以上申上げましたのは全身に對する作用に就てでありまして、其他或物は皮膚病とか又は陳久性の瘡面などに驚くべき效力を有することは明らかなる事實であります。

既に申上げました通り温泉に含有せらるゝものゝ内では炭酸瓦斯と鹽類とが最も多くの作用を有するものでありますから、温泉を

(一)炭酸瓦斯を多量に含有し鹽類少きもの

(二)炭酸瓦斯少くして鹽類多きもの

(三)炭酸瓦斯並に鹽類多きもの

(四)炭酸瓦斯並に鹽類少きもの

と云ふ樣に區別する人もあります。

温泉は其中に含有する化學的物質にのみよつて區別するものでなく、其温度によつても(一)低温、(二)適温、及び(三)高温浴等を區別します。

如何なる疾病には何れの種類の温泉が適當であつて、又何れのものが禁忌であるかと云ふ事に就ては、之を概括的に申上げることは頗る困難であります。何となれば各温泉の適否に就ては單に其成分のみによつて定めるのではなく、温度、住地等、種々なる事情を顧慮しなければならぬからであります、夫故今は唯其主要なるものゝみに就て申上げます。

淡泉は身體の温度を高むる働を有するものでありますから僂麻質斯、神經痛、神經炎、卒中性麻痺、諸種の脊髓病、痛風、炎症、外傷等の病症に適するものであります、但し凡て興奮性の疾病に對しては常に適温又は低温のものを選ぶ必要があります。

硫黄泉は諸種の皮膚病に適應してをります。

鐵泉は病後の衰弱、惡液質、貧血性疾患に適し、其他神經衰弱、脊髓病等にも適應するものであります。

食鹽泉は其應用最も廣く、新陳代謝病、即ち腺病、痛風、佝僂病、骨軟化症及び血液疾患並に炎性滲物を吸收せしむる等に適して居りまして、子宮病なども多く食鹽泉がよいとせられて居ります、其他腦

神經疾患、脊髓病にも應用せられて居ります。

亞爾加里泉は主として胃腸病に應用せられ、其他新陳代謝病にも用ゐられて居ります、此際は入浴と同時に多くは飲用に供せられて居ります。

凡て炭酸泉は身體の表面の溫度を高めまして、それと反對に體内の溫度を下降せしむるものであります。それは炭酸瓦斯の發散と共に空氣中に熱を運び去るが爲でありまして、所謂湯ざめがすると云ふのこはれであります。

炭酸瓦斯を多く有するものは心臓病患者に最も適應して居ります、之に反して興奮性の神經病並に出血の傾向ある患者には禁忌とせられて居ります。

以上は溫泉の水分中に含有する化學的成分の效能に就て申上げたのでありますけれど、溫泉浴の效果は獨りそれのみによるものではありません。

溫泉浴は一種の溫熱療法でありまして、溫泉に入浴すれば溫熱そのものが醫療上大なる效果を有するものであります、例へば烈しき腹痛がある時に、腹部を溫むれば痛みが寛解し、肋膜腔に滲出液が瀦留した際に、溫罨法を行へばその滲出液の吸收を促し、又神經痛、僂麻質斯の如き烈しき疼痛も、熱を加ふる事によつてその疼痛を去ることが出來る樣に、熱氣が治病上極めて多くの效力を有するものであると云ふことは既によく知られたる事實であります、殊に溫泉に於きましては、常に平等に溫度が全身に加はるものでありますから、其爲に神經の興奮狀態を沈靜し、血行を盛んにし、新陳代謝を佳良ならしめ、炎性產物を吸收せしめ、諸種の疼痛を寛解する等、凡ての方面に向つて種々なる效果を來すものであります。

溫泉浴は又極めて有力なる氣候療法であります。何となれば、溫泉のある土地は多く山水明媚、樹木に富み、空氣佳良なる處でありますから、溫泉場に行きますれば、一回も溫泉に入浴しないでも既に食慾亢進し、身體の榮養を佳良ならしむるものであります。現今、氣候療法の著效を有するものなることは

一般に唱道せられて居りますが、溫泉場へ行きますれば、此大切なる氣候療法に加ふるに溫泉そのものの效能を以てするものでありますから、自然其效果が大なる譯であります。然し多數の溫泉場が悉とく氣候療法の適地のみであると云ふ譯のものではなく、時としては硫化水素などが發散して呼吸機を刺戟し、爲に呼吸機疾患、即ち肺結核、氣管支加答兒、喘息等に惡影響を與ふることもありますから、それ等の事に就ては常に注意せねばなりません。

溫泉に行かるゝ人の内には、毎日數回長き時間入浴せらるゝ人があります。然し溫泉浴は回數と時間が多ければ多きだけ其效果も亦大なるものではありません。それでは一日幾回、何分間入浴すれば最も適當であるかと云ふことは、其人の體質、病症及び溫泉の種類、溫度等によつてそれ／＼相違して居りますから、之を一定することは頗る困難であります。身體強健の人でありますれば、たとへ長時間入浴せられましても、其爲に特別の效果を收むることが出來なくともそれによつて健康上大なる惡影響を來すこともありませんから、其人が好んで入浴せらるゝものならば、強て之を拒止する必要もありませんけれど、病後の衰弱、又は天性虛弱の人等にありまして、過度の入浴によつて甚だしき身體の衰弱を來し、時としては病勢を增惡することがありますから、特に注意を要します。

夫故身體に特種の疾病を有せざる人、又は單に虛弱なる人、或は慢性の輕き呼吸器病を有する人等にありまして、殊に頻回の入浴を要する理由あるものにあらざる限りは、入浴は其好む處に從つて一日一二回十分乃至十五分間位に止め、其他は溫泉場の佳良なる空氣の中に悠々自適し、以て身心の靜養をせらるゝことが最も適切なることかと存じます。

妊娠悪阻(つわり)に就て

醫學士　山崎清

妊娠は成熟せる婦人に於ける生理的現象の一にして、妊娠第一又は二個月頃となれば何となく嘔心を來し、時々嘔吐を催す事がある、殊に朝期空腹時に多い、俗に此れを豆波利と稱し、左程榮養障碍を來す事もなく、多くは妊娠前半期即ち妊娠五個月前に自ら症狀消退する故に少しく攝生に注意する事に依りて充分である。然し之れに反して妊娠第三個月頃より妊娠後半期即ち第五個月以後に亙りて食後直ちに發する所の頑固なる嘔吐は、種々なる醫學的治療を以てするも鎭靜し能はずして、全身榮養は之が爲めに阻害せられ、最後の手段として胎兒を犧牲となし、妊娠中絶を見るに至る事あり、尚は此れのみに止らずして、母體生命に對して危險症狀を招く事がある、之を慢性嘔吐、又は悪阻と云ふのである。

然らば妊娠に伴ひ悪阻症狀を來す割合は如何と云ふに都會の婦人と田舍の婦人と比ぶる時には、前者に多い樣である。又た上流社會及び中流以上の婦人は下級婦人及び勞働者より多い樣である。此れは身體の強弱及び過敏の度等に依るのである。日本婦人と西洋婦人とを比較する時には確かなる事はわから無いけれども後者に多い樣である。西洋にてはフロインド氏の報告に據ると悪心嘔吐は妊娠の四〇%である。ケーレル氏は四八%丈けあると報告して居る其他妊娠の半數或は三分の二に本症を見ると云はれてる。本邦にては齋藤學士の報告に依れば、悪阻の妊娠に對する頻度は八千六百五十三例中〇・九%にして妊娠二個月にしは四〇・八%にして最も多く、第三個月には二三・七%が此れに次で多い。

悪阻患者は年齡に二十歳より二十五歳の間が四一・九%にして最も多い

悪阻症狀と分娩回數との關係は初めての産婦に於ける悪阻患者は七十六例中三六・八%にして分娩の回數を重ねる度每に%は減じて居る。

季節に就ては一年中五六月頃に始まる者が多い。
斯くの如く妊娠時の嘔吐は必ず發するものに非して、假令輕度なる妊娠嘔吐も全く妊娠時の生理的のものと見做す事は出來ないのである。
次いで起る問題は、妊娠嘔吐の原因は一體何であるか、此れに就ては古來西洋に於ても多數の學者が研究せしも未だ明瞭なる原因を見出す事が出來ない、故に諸學者に依り種々なる説を立てゝ居るが、多數は妊娠子宮より交感神經を介して胃に傳はりて起る所の反射的神經症なりとの説に贊成して居る。此他自家中毒説等種々の説あるも餘り專門に立ち入るを以て略す。
然し原因は充分に明かならずとも妊娠惡阻を引き起す事を助けるもの即ち素因は種々ある。其中尤も大切なるは胃加答兒、胃の形態並びに位置變常、慢性便秘、其他生殖器疾患、即ち子宮變位、前屈、後屈、子宮腫瘍及び周圍の滲出物等である。
妊娠惡阻に依る死亡率に關しては七十六例中四六%の多數なり。西洋にてはホルウィッツ氏に依れば四四%なりと云ひ、大體其死亡率は相似て居る樣である。惡阻は多く妊娠第四個月の終り又は第五個月に至れば全癒、又は輕快するものなるが故に此時期に近く發病せるもの程經過は善いけれども、妊娠後半期に至りて初めて發病するか又は此時期となるも輕快せないものは經過が不良である。
以上述べたる如く妊娠惡阻は妊娠に必ず伴ふ可き生理的現象ならざる事が理解せられたと思ふ。然るに惡阻なる病氣が餘り多くて妊娠に見るを以て、此れは一種の病氣に非ずして且つ恐る可きもので無いと世人の大多數は申す樣である、此れ大なる誤りにして婦人衞生、殊に妊娠時の衞生にして大に注意す可き大切なる事である、殊に本病は其初期には輕く、少しく攝生上に注意を拂ひ、食物等に意を用ゐる事に依り全快する場合あるも、或時には嘔吐頑固にして如何に醫學的療法を以てするも此れに打ち勝ち得ずして病狀益々進み、衰弱は其度を加へ遂に生命を

伴ひ去らるゝ不祥事を招く事がある。其輕きより重きに移り行く具合は、産科專門醫にも其診斷隨分困難な事がある。況んや醫學の素養なき世人の多くは爲めに醫者の治療を要す可き適當の時期を失ふ事少しとせないのである。尚ほ本病は前にも述べし如く、初めて妊娠せられた方、且つ二十歳位の若き妊婦に多きを以て、往々舅姑達は家の嫁は横著病で少しも働かぬとか、或は神經病だとか申し、或は妊娠五個月の聲を聞けば全癒するを以て醫者の治療を乞ふ必要なしとか申し、殆ど病人として見る事もせず、取扱ふ事無く、打ち捨て置き、次第に病狀進み重篤となりて始めて醫者の治療を受けしむるも、時期已に遅れて不幸の運命を取る場合少くないのである。依て妊婦の胃加答兒其他の胃疾患、子宮病、便祕の習慣ある方は前以て産婦人科專門醫の治療を受け、此れを矯正し或は全治し置くことが必要である。食物は消化し安き流動物且つ滋養に富める物を選み、一時に多量を取らず、少量宛數回に攝取す可きである、斯くするも尚ほ嘔吐止まらざる時には勿論醫者の治療を受く可し。殊に妊娠惡阻患者は精神興奮する事多きを以て身體及び精神上の安靜を計る事は殊に大切なり、依て種々の家庭的仕事より全然離れて安臥をなす事は必要なり。

世人の多くは餘り妊娠惡阻を等閑に附する樣であるから、其恐る可きを說き、以て婦人衞生、殊に妊娠時攝生の爲めに極く平凡な且つありふれたる事を述べたのである。

英國に於ける救濟事業視察談

法學士穗積重遠述（慈善第八編第一號）

穗積氏は中央慈善協會に於て、歐米各國の監獄、感化院、少年裁判所、又これに關係のある種々の慈善事業、救濟事業と云ふやうな事に就て視察された所を御話になりましたが、大層面白い御話で、

吾々の參考とすべき點も少なからず。又如何にも淡しい色々の施設があるやうであります。それでその御話の中の二三個所を玆に拜借して皆樣に御紹介致し度いと思ひます。（編者）

感化院の視察と其感想の其次は十一月三日、丁度元の天長節の日であります。其日に「インダストリヤルスクール」といふ倫敦の感化院があります。其感化院を見に行つた日記があります。

十一月三日の午前に例の三木、飯島、宮田、清瀨の四君と共に「インダストリヤル、スクール」なるものを參觀する。校名を直譯すれば職業學校といふことになるが、實は一種の感化院なのだ、英國の感化設備には二種ある、一は「レフオーマトリー」(感化院)十六歲以下の犯罪少年を收容する場所、他は卽ち「インダストリヤル、スクール」で、これは元來の性質は全然前者と異なり孤兒院から發達した慈善設備、其收容する少年は十二歲以下の孤兒、私生子、親が犯罪人、無賴漢、暴酒家であつたり又は犯罪人團體に近接せる爲めに惡影響を受ける憂れのある少年、乞食小偷等で、其主たる目的は犯罪を懲罰するよりも寧ろ犯罪を豫防するにあるのだ、併し裁判所は其見込により十二歲以下の犯罪少年又は十四歲以下の初犯の少年を感化院に送らずして此「インダストリヤル、スクール」に入れるやう命じることも出來る。而して此學校は寄附金に據る慈善設備で、政府の認可を受け其監督の下に立つて居る、全國各所にあることであらうが、今日參觀したのは我々の者から十數分のレジエント、パーク、ロードといふ所にあり、千八百五十八年の設立で倫敦では一番古いといふ、敎育主任のテーラーといふ人が懇切に案內して吳れる、こゝでは男の子ばかりを收容し且つ犯罪少年は入れぬらしい、目下の生徒百三十人に對して職員は十數人、生徒一人に就き一週十六志(八圓)かけるといふのだから世話が行届く筈、夏は海岸に行つて天幕生活をするなど、日本なら學習院でもやりさうな贅澤沙汰だ。

生徒は七八歲から十三四歲まで、中には却々可愛いゝ子も居る、讀書算術等普通の敎育もするが、それよりも職業敎育が主らしい、職業敎育としては「パン」燒き、靴工、裁縫、木工、印刷、樂隊の一つをそれぞれの才能によつて敎へ込み、これで將來飯が食へる樣にしてやらうと云ふ趣意、何れも先生が一人づゝ居て親切に敎へて居る、「パン」燒部ではこゝで用ひる「パン」を燒き炊事もする、靴、裁縫、木工の三部では外から註文も受けるといふのだが重に自用の品を主としてこしらへて居るらしい、印刷部では先生が戰爭に行つてしまつたので年端の子供が指圖して働いて居り、これは私達だけで刷つたのですとて廣告引札の類を見せた却々よく出來て居る、我々が貰つた報告書もこゝで印刷したのださうだが寫眞入りか何かで立派なものだ、これ等の敎室を見廻つて居る中に樂隊部から一曲御聽きに入れたいからとの御案內、其敎室に行つて見ると樂手は二十五人程、御道具一切揃つた完全な樂隊、樂長しかつめらしく『先づ貴國の國歌を奏します——さアいゝかれ成べくゆつくり……』と指揮杖一振り、我等が愛する「君が代」の曲は洋々として可憐なる喇叭より湧き來る、今日しも十一月三日、

明治天皇の祭日に當つて此思ひも寄らざる「君が代」の演奏の歡迎を受く、これ偏に　先帝、聖上兩陛下の御稜威八紘に輝けるの致す所、快しといはんか嬉しといはんか、帽を脱し襟を正して謹聽して居る中に思はず涙が浮んだ、其又演奏の巧みなこと、我國市中音樂隊などの及ぶ所にあらず、恐らく今度の戰爭に就き同盟諸國の國歌を敎へたのであらう、奏し終つて樂長が何分急な稽古ですからと頻りに言譯して居たがどうして〳〵眞に完全な出來ですと褒めたので大喜び、次は何とかマーチを御聽きに入れますとこれは又御手に入つた得意の曲、「君が代」の時ひまだつた太鼓や鉦が一活動でドン〳〵ジャン〳〵勇ましゝ〳〵、此樂隊部は折々園遊會等に招かれて收入があるのみならず、卒業後軍樂隊等によい位置が得られるので大成功の由、校内の建物で一番立派なのは例に據つて敎會堂、日曜には公開して一般公衆をも祈禱に列席させるとの話、それでは我等も來てよいかと尋ねたら、是非御出でなさいと向ふも大喜び、次の日曜を期して歸る。我國でも幼年裁判所が物になりさうな樣子、至極結構なことだが、幼年裁判所が充分の働きをするには二つのなくてならぬものがある。一つは老練有徳の專裁判官、一つは斯の如き補助設備。

此少年裁判所のことでありますが、先程申しましたやうに。私多少の興味を持ちまして獨逸でも見ました。亞米利加でも少年裁判所は古くからあります。が、私の見ましたのは紐育にある今度新築になりましたものを見たのであります。其紐育の幼年裁判所の建物は、亞米利加のことでありますから、實に立派なものであります。建物の立派であるといふことは枝葉の問題でありますが、此幼年裁判所に取つては何よりの大事なものは裁判官であるといふことは申すまでもないことであります。此紐育の少年裁判所の裁判官も却々聞えた偉い人でありませうが、私は其人とは餘り親しく話はしませぬが、伯林の裁判長でドクトル、ケレ子といふ人があります、此亞米利加の少年裁判所は少年裁判所の元祖でありますが、獨逸では此ケレ子を亞米利加に派遣して少年裁判所のことを研究させ伯林へ歸つて來て自分が少年裁判所の裁判長になつて居ります。私は其獨逸の少年裁判所を傍聽して如何にも感心しましたのは、其ドクトル、ケレ子が裁判長といふ態度を離れて子供を自分の卓子の前へ呼びつけて懇々と話をして居つて、子供をしていゝおぢさんだと思はしむるやうな有樣を見て感じたのであります。日本でも少年裁判所法案が出來て居るさうでありますから其中には議會へ

出されて本物になるでありませうが、是は法律だけでは駄目であります。裁判官に餘程しつかりした偉い人がならなければなりませぬ。世故にも通じ常識を備へた恩威竝び行はれる立派な年配の方がならなければならぬ。假令少年裁判所の制度をやることになつても裁判官の人選を餘程巧くやらなければ折角の制度も何もならぬことにならうと思ふのであります。其裁判官も大事でありますが、モウ一つ大事なのは少年を救護する所の慈善事業であります。是が背後になければ裁判所は何んの働きもしないのであります。伯林には少年救濟協會といふやうなものがあります。不良少年、貧兒、孤兒等の世話をして居るのでありますが、幼年裁判所と能く連絡を取つて居るのであります。少年裁判所では裁判長が居る所へ子供が來る。さうすると其傍らの椅子に婦人が居つて帳面をくゝつたり書付けたりして居る。私が其部屋に這入るとドクトル、ケレ子が直ぐ私に向つて、此裁判所は私のではない、此婦人のものである

といふ。其婦人が其處に居るからでもありませうが兎に角さういつて私を紹介して呉れた。其婦人は今の少年救濟協會の役員なのであります。始終裁判に立會つていはゞ監視して居るのであります。又裁判の結果を見てそれに相當其後に對する手段を取るといふのであります。裁判長も子供を裁判しながら絶へず婦人と色々相談して居る。といふのは例へば或る孤兒があつて盜みをして警察へ引つ張られて行つてさうして此裁判所へ來る。さうすると警察の方から直ぐ少年救濟協會へ通知をやります。協會の方では其子供の住んで居る近所に就て其子供の性行、親達の生活狀態といふやうなものを調べる。それを書いて參考の爲に裁判長へ出す。さうして此子供は斯ういふ同情すべき理由があるとか、斯ういふ惡いものであるとかいふ風に辯護士のやうなこともやり、又檢事のやうなこともやるといふ譯で、辯護士と檢事を兼ねたやうなことを婦人がやるのであります、裁判長はそれを聽きながら裁判して居る。

其子供の裁判の結果は大抵譴責にするのであります。そこで小言をウンといつて少年救濟協會の婦人に引渡し、或は子供の親達に引渡すのでありますが、其引渡す場合に貴方の方で氣を附けてやつて吳れと婦人にいふと、其協會では始終人を出して見させて居るのであります。さういふやうに慈善事業と裁判所と非常に能く連絡を取つて居るのであります。亞米利加でも恐らくさうであらうと思ふのであります。亞米利加の裁判所では裁判長が、お前は何週間の拘留にするといふことをやつて居るから、拘留するといふが何處かへおやりになるのであるか、其監獄は何處にあるかといつたら、イヤ子供の監獄といふのはないので大抵は慈善事業へやるのであるといつて居りましたがさういふやうな連絡は非常に能く取れて居るのであります。若し日本でも少年裁判所をやるならば先づ其方の設備を充分して、司法省、裁判所の側と皆さん方の慈善事業を爲さる方と充分打合せを付け、皆樣の方では充分其裁判所を援助する、司法省裁判所の側では充分に皆樣方の慈善事業を爲さつて居る方の意見を尊重して、又援助を依賴して先程お話したケレ子のやうに裁判所の中心は自分ではない、慈善會のお方であるといふ考へでやらなければ、如何に規則を拵へても迚も巧い效果を擧げることは出來ないだらうと思ひます。

教會と食道　それから英吉利で學校、監獄、感化院の類を見て、殊に私の眼に著いたのは教會堂と食堂が著しく立派であつたことであります。監獄とか感化院などの教會堂が立派であるといふのは是は聞へて居りますが學校であります。殊に法律學校などで私が殊に感じるのは第一食堂が立派であります。是は倫敦でも牛津大學邊りでも食堂が實に立派であります。さうして學科の方からいつても教場で講義を開くよりも寧ろ食道で飯を食ふことに重きを置いて居る。或る學校など講義には幾ら缺席しても宜いが食堂へは一學期の中には一度とか二度とか出なければ卒業が出來ないといふことで、是は面白いこと

で日本の大學其他でも教場ばかりを目的にして居るがそれでは不完全な話で、食べ物の問題でなしに其食堂に先輩、教師、學生一同が揃つて飯を食ひながら色々話をする。何もさうしたから直接どういふ利益があるといふよりも、其處で感化を受け世間を知る、大いに知識を得るといふことになるので、あちらでは食堂といふものを非常に重く見て居ります。又感化院等でも食堂は立派に出來て居る。皆が打揃つて愉快に飯を食べるといふことに却々重きを置いて居るのであります。モウ一つは教會堂が立派であります。是も申すまでもない是非さうなければならぬことであります。日本でも慈善事業等に就ては如何でありますか私は能く知りませぬが、學校、裁判所況して法律家は信心氣が甚だ薄いのであります。ところが英吉利では法律家に信心の心が厚いのには寔に敬服したのであります。是は話が横道に這入りますが、英吉利では丁度十月に新たに裁判の期が始るのでありますが、其始めの期には倫敦の高等裁判所の裁判官、何れも英吉利第一流の立派な大岡越前守連のお揃ひである。そこへ倫敦に事務所を有つて居る辯護士が一同打揃つてどうぞ吾々の調べが不完全でないやうにといつてお寺へ其日の朝お詣りをして祈禱をするのであります。それで天の裁判官たる神様にどうか吾々が公平なる裁判をして無罪者を罰したり、不公平な取扱ひをすることがないやうに護つて戴きたいといふことの御祈りをする儀式があるのであります。是は日本などでは思ひも付かないことで、私は特に頼んで其席へ列席させて貰ひましたが感服致しました。其時一人の知合の辯護士、丁度今度外務省の顧問になつて來ましたドクトル、コーメ其人の紹介で列席させて貰ひましたから、昔日本に板倉重宗といふ名裁判官があつて法廷へ出る時には愛宕の神様を拜んで、若し間違つた裁判をした時には私の命を取つて下さいといふことをいつて祈つたといふことが殘つて居るが今日の英吉利は日本の昔のやうな名判官のやつたやうにやつて居るの

であるが實に感服したといふことて手紙をやりましたら非常に喜んでさう褒めて貰つては困るが多少其心掛けでやつて居るといふので自負して判じましたが、幾らか信心といふことに緣遠い法律家すらさうでありますから監獄とか慈善事業等でも教會といふことには非常に重きを置いて居る。殊に一般に宗教の念に厚い國民でありますから、宗教上の教育といふことはやりよくもありませうし、效果も多さうに思はれたのであります。

一行二十人と東部倫敦の視察　監獄、感化院等のことは大體こんなことにして置きますが、倫敦に於て慈善事業等に趣味を有つて居る者が是非見なければならぬものがあります、それは有名なイーストエンドの貧民窟であります。ところが其處を見るのは甚だむづかしいのでありまして、隨分危險ださうであります。迚も外國人が一人では行けないので、うつかり這入ると飛んだ目に會ふのであります。それから又其處を外國人に見られるのは英吉利人は嫌がる

といふこともあるので、同じ倫敦を案内するのでも綺麗な處を見せて吾々田舍者を魂消させるのは奴等も愉快でせうが、穢い處を見せることは喜ばない。普通の人に賴んでも今はそんな穢い處はないとか何んとかいつて見せて呉れない。それを賴むには巡査を賴むが宜いが、巡査についてがなければ救世軍を賴むが宜いといふことを聞きました。そこで私は救世軍に賴みまして……それも極くひどい處は見せぬが少しは見ました。其救世軍に伴れて行つて貰つた處を書いたのであります。倫敦に加藤直君といふ名前の聞へた牧師さんでありますが、此人と私と親しくして居りましたので、其人と一緒に行つたのでありますさういふ話が出た處がそれは面白いから僕も行かうといふので觀光團連中で行きました。

十二月三十日　加藤牧師が先日救世軍に交渉して倫敦イーストエンドの貧民窟を案内して貰ふことにした故一所に行かぬかとの話、それは豫て望む所故是非と申入れて置いたが、今日が其當日早晝にして出掛ける、加藤氏の先達に總勢二十人とは大した騷ぎこれだけ揃ふと却々目立つと見え、流石行儀のよい倫敦人も顧り

にジロ／＼見る、飲んだ「イエロー、メタル」だ、其「イエロー」の大軍が投込む先きは「ホワイトチヤペル」とて倫敦東部の銀座通り、救世軍本營に押寄せ大佐某氏とて三十六年も従軍して居るとかいふ大強者を生捕つて案内して貰ふ、此人誠によささうな老人で親切に案内して呉れたが、併し我輩は目的を遂げずして退却といふ失策に終つたといふのは、救世軍のやつて居る仕事ばかりを見せてとう／＼眞のイーストエンドの貧民窟、所謂「スラムス」なるものに連れて行つて呉れなかつたことだ、第一に見せられたのは大木賃ホテルだ、却々大仕掛で數百人の宿泊食事の出來るやうになつて居る、「ベツド」は上等が一夜五「ペンス」（二十錢）並等が三「ペンス」（十二錢）食事は一品一「ペニー」又は「ヘペニー」（四錢又は二錢）、これ勿論慈善的の安値段なのであらうが、して見ると貧民と雖も却々生活程度の高いことが分る、生活程度が高いといふのは西洋の貧民が日本の貧民よりうまい物が食へるといふ譯ではない、生活程度が高いからして貧民の困難が益々甚しいのだ、此監獄よりも設備の遙に惡い木賃宿に泊るにも少なく一日六「ペンス」（二十四錢）はかゝる、月七八圓になる勘定だ、斯ういふ宿無しの一人者と違つて一部屋を借りて家族を養ふには、どうしても月二十圓位はかゝるといふ、其代り賃銀のよい職業にありつけば其位の額はかせげるのであらうが其職が却々見附からぬから困難するのだ、ところが戦争以來イーストエンドは頗る景氣がいゝといふ、身體の達者な連中には義勇兵といふよい職業が出來た、而して一方勞働は多くなつたのに若者は減つたのだから老人まで相當な職業にありつけることゝなつたので所謂無職業問題が御蔭で一息ついた譯なのだ、今はよいが戦争が濟んだらば反動で前よりも一層ひどいことになるだらうかと今から心配して居る人もあるが、兎に角今は種々の由、而して開戦以來犯罪が非常に減じたとのことだこれ國民愛國心の致す所と新聞は自慢して居る、或は然うだが、其重な原因は喧嘩の一つもしようといふやうな奴は大抵兵隊になつたこと、而して此無職業者の減じたこと、又飲食店を午後十時限りにしめさせることなどもそれ〴〵一原因に相違ない。

實際戦争が始つてから英吉利では貧民連中が景氣が好くなつて仕事が殖へたのであります。總ての處で非常によい給料で雇つて呉れるので足腰の立つ若い者は皆行く、一方には今迄勤めて居た者が戦争に行つたので其缺員が多く出來る、そこで老人も婦人も行くのでありまして、救世軍の事業などは謂はゞ御客が少なくなつた譯であります。それで今はよいのでありますが、いざ戦争が濟んでから色々の騷動が起ると思ふのであります。戦地でも英吉利の兵隊は贅澤であるといふことでありますから贅澤に馴れる。又戦地で惡いことも色々覺えて居る。常備軍の制度でないから歸つて來れば解隊される。それが元の職業へ這入らうとすると既に他の人に占領されて

居る。殊に此際婦人の女權擴張論者も却々巧妙の運動をやつて居ります。又其いふ處が却々立派でありますから誰も何んともいはない。工場、郵便局、電信電話といふ仕事は皆女が引受けるから男子は國の爲めに戰地へ行つて呉れといつて國内の仕事は態よく女が占領して居る。それで男子が戰爭から歸つて來ても女は自分達の占めた椅子を引渡さない。又使つて見ると女も却々役に立つといふことで女が職業を占領する。さうすると戰爭から歸つて來た者は鼻息は荒くなつて居る、怠け癖は付いて居る、職業は失ふといふので此間に衝突が起ると思ひます。それから救世軍の安宿であります。安宿といつても一日上等が二十錢、下等が十二錢といふのであります。我國からいへば高いのでありますが、我國とは「マチー」の値打が違ひますからか是でも餘程謐して居るのであらうと思ひます。

十二月三十日(續き)　次に「タワー、ブリッヂ」を渡つて川向ふの紙屑選分場に行く、これは救世軍が貧民に職業を與へる爲めの事業で市中の紙屑を集めて來てここで整理荷造りし、戰爭前は主として獨逸に送出して獨逸でこれを製紙原料の「パルプ」に製し、更にこれを諸國に輸出して倫敦の紙屑が日本までも來る由、平生は六百人程の職工が居つたのださうだが目下戰爭の爲め適者な奴は皆兵隊に行き、ヨボヨボ許り三百人殘つて居るとのこと、其上戰爭で獨逸への輸出は塞がる、紙屑運搬用の馬は徴發される、市中の紙屑は新聞のビラ等で多くなるといふ始末、場内紙屑の山をなして救世軍も大弱りの樣子だ其又場内殊に紙屑撰分場の臭さごみつぽさ、割合に無神經な僕も少々閉口した位故日本軍大辟易。

隨分工場等も見ましたが、救世軍の紙屑選分は隨分穢いので閉口したのであります。斯ういふ仕事も矢張する人がなければならぬのでありませうが、慈善事業などではさう贅澤もいつて居れないかも知れませぬが斯ういふ仕事は出來るならば避けたら宜からうといふ氣がしたのであります。

十二月三十日(續き)　場内に面白い勸工場がある、蓋しロンドン第一の「デパートメント、ストワー」であらう、缺けた茶碗やらいびつな「ランプ」やら、へこんだ椅子やら穴のあいた「シャツ」から大きな「トランク」もあれば乳母車もあり、椅子のゆがんだのもあれば、「テーブル」の傾いたのもある、何んでも無い物はないが滿足な物は一つもない、イヤ滿足でない位ならば結構だが此位滿足なるガラクタ物は鎗太鼓でさがしてもあるまいと思はれる程の名

品揃ひ、案内の士官殿これは皆「セコンドヘンド」といつたが、どう致しまして、いづれも時代に奉仕して刀折れ矢盡きたといふ忠臣連、併し二君に仕へずではなくて更に駿馬の骨を買ふ伯樂を待つて居る、そこが捨てる神あれば助ける神で近所界隈の山の神様の神庫にかなひ埋れ木の花咲く春もあるといふ、冬の日短かくて忽ちトップリ暮れてしまひ、先づ今日はこれぎりといふことになつた、救世軍の本營の近くで「ユデヤ」人町を通り、其の賑かさと不潔さが頗る支那町に似て居るので成程西洋の支那人だと思ひ、又たこの紙屑場の界隈でつけ纏ふ子供の穢なさ、臭さに驚いた位で、とう〳〵眞の貧民窟を見ずじまひは寶の山に入りながら手を空しくして歸る憾みありだ、英人も餘りひどい所を外國人に見せるのはいやな樣子だ。

是が甚だ面白い設備でありまして、紙屑から選出した中から役に立つ物を選んでチヨツトした勸工場が立つて居ります。それを捨値で賣るのでありますが其近所が貧民窟でありますから嬶連が買ひに來るので御互に調法をして居るのであります。

さういふ譯でイーストエンドの肝腎の處は此時は見ませぬで寔に殘念でありますから、モウ一度見たいと思つて私の賴みつけの洋服屋の亭主でウエブスターといふ洋服の裁縫は巧くないが面白い奴で、是がさういふ慈善事業に肩を入れる男でありました。ところが巡査の數が足りないので義勇巡査が出來た。先生早速飛び出して此義勇巡査になつて居るから其人を煽動て案内を賴んだ。それが駈出しの巡査であるから矢張極くひどい處は見せぬが稍々ひどい處を見ましたが倫敦にも斯ういふ處があるかと思つたのであります。モツト奧へ這入つたら尙ひどい處があつたらうと思ひます。

勞働者に對する安料理店　二月五日　午後五時第一に「アレキサンドラ、トラスト」ダイニング、ルームス、といふ安料理店を見に行く、こゝは其名の通り皇太后アレキサンドラ陛下の保護の下に出來たもので、下級人民に安くてうまひ食事をさせやうといふ設備、封入の畫はがきで御覽の通りの宏大な建物で各層にそれ〴〵大食堂があら、一日五千人のお客がある由、一品一「ペニー」、二「ペンス」、最上の料理が三「ペンス」、三品の「ターブルドート」で五「ペンス」といふ當地にしては破格の安値だ、併し五「ペンス」といへば我國の二十錢、大學の御殿食堂の食事が三十錢なることを思へば生活程度の相違を知るに足る、併し此三「ペンス」なり五「ペンス」なりを拂つてたべに來る連中は貧民と申上げては失禮なので、いづれも堂々たる男女勞働者諸君、封入の寫眞で見ても服裝など見苦しからぬことが分るであらう、此等の有料の御客

様の外に漏るきたなくやかましい御客様が來る、それは界隈の御子供衆で、これこそほんとの貧民の児子、一日五六百人に無料で御菓とおヤツをたべさせるのだ我々の行つた時は丁度午後の御茶が濟んで子供達が歸る所、狂言「縄なひ」の太郎冠者の文句ぢやないが「そのむさゝ」よくも〳〵こんなきたない子供が斯う澤山揃つたものとびつくりする位だ、そのボロ〳〵の茶目君おべそ嬢がワヤ〳〵パタ〳〵と大階段を降りて行くと入口の番人が階段の下に大手を擴げて立塞がり、數十人にたまるまでせき止めて居る、さうして置いて出口の前に立つた巡査に合圖をすると巡査が往來に向つて片手を上げる、織るやうに馳せ違つて居た車馬がピタリと止る、そこで子供達を出して遣る、即ち子供達が出口を出ると出會がしらに自働車に轢かれない用心で却々行屆いたものと感心した斯ういふ際の巡査の命令がよく行はれるのはいつもながら大したもの、成程「道路王」の稱空しからず。

倫敦の巡査　倫敦の巡査といふものは實に感服するもので、倫敦で一番私の感服したのは巡査といつてもよいので、何れも六尺もある格恰のいゝ人で何れも親切げなニコ〳〵した顔をして居りまして、少しも威張つた様子はない。丸腰で棒一本持つて居らぬ。日本の巡査は御承知の如く獨逸の巡査なども矢張長い劍をさげておつかない顔をして居りまして、チヨツト道を聞くにも少々氣が置けますが、倫敦の巡査は心安く道でも何んでも開ける。又聞いても親切に教へて呉れるので、實に氣持が良いのであります。殊に倫敦の巡査のうまいことは道路の整理をすることであります。倫敦の巡査は餘り物をいはない。口をきかない。日本の巡査は物を言ひ過ぎて懇々説諭などゝいつて餘り口をきゝ過ぎるといふやうな傾きがありますが、倫敦の巡査は何んにもいはない。又惡い奴があれば大きくつて腕力がありますから何んにもいはないで其奴を引つ掴んで警察へ持つて行く。唯手一つの働きであります。織るが如く車馬輻輳する處に立つて手を擧げて指揮をして居る處は實に見物であります。チヨツトこちらへ手を擧げると矢のやうに走つて居る自働車、馬車がピタリと停る。其間に今度はこちらの手を擧げて他の方向を通る馬車を通過させるといふ風で實に道路の整理は巧いものです。それに就て面白い話がある。倫敦の巡査は如何にもよい。道路警察が行屆いて居つて車馬の取締が屆いて居るといふので巴里の警察から極く選抜

きの巡査を十人とか十五人とか見習に遣らした。それが倫敦警察に就て一年程充分道路警察の要領を見習つて巴里へ歸へて辻々に立つて手を擧げてやつて見るがどうしても出來ない。それで倫敦へ其事をいつてやつた處が、それは巡査だけ寄こしても駄目だ、市民全體を寄こさなければ駄目だといつたといふことでありますが、是は味ふべき話で、日本でも巡査は市民の保護者であつて仲を好くしなければならぬのであるが、どうもうまくいかない。それは何れにも缺點がありませうかモウ少し圓滿にやらなければお互に損であつてそれでは警察を設けた制度が達しられない。其外仲が好くなければならぬもので仲の好くないものが色々ある。嫁姑の仲が惡い。電車の車掌と御客もさうであります。片方は御客、片方は車掌、其の車掌の御蔭で早く行かれるのでありますから仲を好くしなければならぬのに是が又頗る仲が惡い。始終喧嘩が絶へないといふやうになつて居る。一般の人が巡査はどういふもの、又車掌はどういふものといふことを知つてこちらから巧くやつてやらなければならぬ。英吉利の巡査を見ると御上の役人などゝとは思へない。又一般市民も巡査は吾々のサーバントであると思つて居る。吾々の番人である。巡査の命令に從ふのは政府の命令に從ふのではない。自分の命令に從ふのである。左を歩けといへば自分の命令であるから左を歩く。それは少しも癪に障らないといつて居る。さういふ風に政府、役所は結局自分達の爲めにあるものだといふことが人民の頭に能く這入つて居る。政府當局も人民の爲めにあるものだといふことでやつて居る。斯ういふやうに總てのことが巧くいつたら行政、裁判、何事も巧くいくといふことを英吉利に居りましては感ずるのであります。

二月五日(續き)　次にはホックストンといふ町の貧民學校へ行く、こゝでは貧兒に無料て晩飯な振舞ふのださうだが、まだ時間が早かつたので一人も來てゐなかつた、元氣のよい女事務員が各室な案内して頻りに話す、こゝはサー、ジョン、ヤークといふ有名なリヴイングストーンに從つてアフリカへ行つたこともあるとい

ふ老宗教家が主として盡力して居る慈善事業で、最近一年間の事業を統計的に申さば、說教、日曜學校、青年會、母の會等の宗教的社交的集會の出席者、一週平均一萬三千人、貧兒の爲めの無料食事一年六十四萬人前、衣服の給與三萬一千、靴三千百二十足、劇院の施與券一千枚、貧兒を郊外の一日遠足に連れて行つたもの二千六百四十人、一週間以上田舍海邊に送つたもの七百四十四人との話であつた、こゝの建物の設備で一寸面白いと思つたのは、子供にいたづらが出來ぬやう電燈の點滅に特別の鍵を用ひれば出來ぬやうになつて居ること、、子供が階子段の手摺の上に跨つてすべり落ちて遊ばぬやう欄干の上に金網が張つてあることであつた、其の次には救世軍の安宿へ行く、こゝは大分客種が惡く、食堂でソップの茶碗をかゝへ込んでガツ／＼すゝつて居る者共も、まだ年だのにヅラリとならんだ寢臺に力なく横はつて居る連中も、いづれも浮世の敗北者たる哀れさを殘りなく現はして見るもみじめな光景であつた、併し此情ない「ベット」も一時は一夜五「ペンス」（二十錢）二等は三「ペンス」（十二錢）最後には「キングエドワード、インステーチユーシヨン」といふ救貧院へ行く、院長らしい極くよささうな紳士が出迎へて丁重に挨拶し、事務員に命じて詳細に案內說明させて呉れる、ここでは種々雜多な事業をして居て一々枚擧に遑ないが、二三面白いと思ふ仕事を數へて見れば、(1)八歲以下の貧兒に每朝無料であたゝかい牛乳とパンを施與する、(2)病身の貧民を每夏田舍に轉地療養をさせる、年々七百人以上の由、(3)失業者の家庭にソップをくばる、(4)醫師看護婦の無料派遣、(5)女工宿泊所、(6)貧家子弟の教育訓練等で殊に最此種の事業に力を入れて居るらしい、先づ日曜學校等の宗教教育、男には大工、靴屋、女には裁縫料理等の職業教育、男女の樂隊をも養成し、體操、「フートボール」など身體をも鍛へる、又娛樂機關たる「クラブ」の設けもあつて諸種の集會を催し少年少女それ／＼に救護隊なるものを組織して規律服從の習慣を養ふと共に人命救助等社會事業に一臂を揮ふことを心掛けさせるなど至れり盡せりだ、詳細は同所で貰つた寫眞入の報告書を別封で送る故それにて御承知ありたいが、最も面白いと思ふのは女子の裁縫科、男の靴科では貧家殊に寡婦孤兒の衣服の仕立繕ひ及び靴直しを無料で引受けて、職業教育の傍ら共助の精神を養はせることだ、西洋の貧民に取つては靴といふことが一問題だ、下駄や草履、草鞋より高いし、こわれた場合に自分で鼻緒をすげるといふやうな譯にいかぬ、故にこちらの貧民救助には前述サー、ジヨン、ヤークの貧民學校の項にも見へた通り衣服のみならず靴の世話をしてやらねばならないのだ。別封で送る報告書には色々面白い寫眞があるが、卷頭の靴工場の寫眞を見よ、普通なら御客樣の方が靴屋よりは綺麗いなはづなのがあべこべだから面白い、併し此氣の利いた職工連も皆此靴を直して貰ひに來て居る四人の貧兒と同じ貧家の子弟が丹精で斯うなつたのだと思へば貧民教育も實に大したものだ、情は人の爲めならずといふが、貧富の懸隔が如何にも甚しい英國の社會がよく無事なることを得て犯罪人も比較的少ないのは富豪が金を惜まず志士仁人が心を傾けて此種々の慈善事業を怠らぬからである、英國では社會政策などゝいふ名前や學問より先きに社會政策的事業が發達した、其開祖は卽ち嘗て述べたことのある少時貧民の葬式を見て志を起したシヤフスベリー卿だ、我國も此點は將來益々注目されねばなるまいと、此救貧院の一室に高く掲げら

れたる同聞の昔噺を聞いた。大分時が移つた故これで引上げることゝし、地下鐵道停車場への途を尋ねると院長が側の少年救護隊の一少年に命じて送らせて呉れる、これが貧家の子かと思はれる程の品格あり作法正しき十三四の少年「ボーイ、スカウト」カキの制服制帽甲斐々々しく先きに立つて脇目もふらずスタ〱と行く、軈て停車場の入口でクルリと振向いて立止り「ヘーア、イズ、ザ、ステーション、サア」と切口上でいつて擧手の禮、それでは少し許りとかくしに手を入れる間にもう脇目も振らずにスタ〱と歸つて行く。

育兒

コドモの習慣

醫學士　竹内薫兵

コドモと云ふても年齡の相違がある、生れたばかりの赤ちやん、即ち初生兒、それから乳兒或は哺乳兒と云ふ時代より、五六歲、更に進んで小學校に通學する頃の小兒に至るまで皆コドモと稱せられるが、その時期に依て種々の習慣がある。習慣と云ふても廣い話であるが、茲には專ら醫學上から見たコドモの習慣に就て二三注意すべき事を述ぶるに過ない。

先づ吾々小兒科の實地にたづさはつて居るものが、常に見且つ聞く所の幼兒の習慣で最も多く、又最も困るのは抱癖である。即ち始終抱てゐなければ眠らぬコドモがある。一寸でも下に置けば直ぐ啼く、それが爲に絕えず誰か抱てゐなければならぬと云ふやうな譯で、家族中晝夜惱まさるゝことがある。これが所謂抱癖で、お母樣がつけた癖である。初めから、授乳時の外は決して抱かぬことにして置けば、斯樣な癖はつかぬのである。この癖を矯正するにも矢張同じ事で、如何に啼くとも、乳を與へる時の外は決して抱かぬやうにしなければならぬ。

次には飮ませ過ぎである。西洋では乳が不足で榮養不良に陷るコドモが多いが、我國では反對に母乳でも牛乳でも飮ませ過ぎて消化器を害するものが多い実際吾々小兒科醫が最も多く見、又最も多くコドモ

の死亡するのは消化器病であるが、その最も多い原因は、この飲ませ過ぎにあるやうである。時間も何も構はず乳を與へる、泣きさへすれば乳をやる。これが爲に消化器を害して下痢を起し、それから種々の餘病を發するのである。俗に所謂脳膜炎と看做さるゝやうな症狀も多くはこれより起るのである。故に飲ませ癖、又飲み癖をつけぬやうに、正しく適當の時間を守つて授乳することが必要である。即ち發育の時期並に榮養の狀況に伏て二時間置き、次に三時間置き又四時間置きと云ふやうに時間正しく乳を與へなければならぬ。

それから著せ癖。吾々は前述の飲ませ過ぎと同じく、著物の著せ過ぎを見ることが甚だ多い。試みに一例を擧げて、その程度を示せば、つい先日私の診た小兒の如きは、「フランネル」の肌著を二枚著せて、その上に綿入を二枚著せて、それに綿入のチャンチャンくコヲ著せてあつたが、まだそれ計ではない、晒布と「フランネル」の「オシメ」を貼てた上に綿入れの襁褓でくるむで居る、併し外に出るには、それでも寒からうと云ふのる、これを毛布で巻いて、チンチコ半纏で負ふて居る。而して小兒を見れば、汗をかいて居る。親はこれで普通の著せ方だと自分では思ふて居るのである。斯の如き狀態であれば、何ぞの機會で少し薄著をさせ、又は一寸風に當つても直ちに感冒を引くことは見透いた事である。前の消化器病と相並んでコドモの最も多く冒さるゝのは咳嗽の出る病氣である、即ち呼吸器病であるが、これも今言ふたやうな著せ過ぎが原因になつて居ることが少なくない。それで衣服はその季節氣溫に應じて調節しなければならぬが、扨て何を標準にするかと云ふと一寸困る。種々の方法もあるが、私は襟首の處から著物の間へ寒暖計を插込むで、皮膚と衣服との間の空氣の溫度を計つて標準を立てるのが一番宜しいと思ふ。これは生理的の零度、即ち小兒を湯に入れる時に、熱からず冷たからずと云ふ中溫を基礎とするのであるが、私共の試驗して見た所では、我邦のコ

ドモには三十五度内外、先づ三十五六度と云ふ所が最も適當である。西洋のコドモでは一般にこれよりも低く、三十四度と云ふやうなのもあるが、先づ三十五六度を以て中溫と見て宜しからうと思ふ。それで皮膚と著物の間に含まれて居る空氣の溫度が三十五度内外に保たれて居るならば、著物の著せ方は先づ適當と見て可いのである。

次には間食。これも適當の物を適當の時に與へるのは害もないが、世間の親達は妄にコドモに間食を與ふるのみならず、凡ての事に食物を利用してコドモをだますのである。例へばコドモが騒がしいと、お菓子をやるから、おとなしくせよと云ふて菓子を與へる。何ぞ買て呉れと云へば、それも可いが、今日はお菓子をやるから我慢をせよと云ふて與へると云ふ風で、此方から進むでコドモの間食をそゝる。その爲に常食が不規則になり、消化器を害するやうになる。三度の食事を十分にすれば、コドモと雖も、それ程間食の必要はないのである。これも一つの癖である。

最後に十五六歳位のコドモになると、誠に困つた惡癖がつく、所謂オナニーと稱するもので、西洋のコドモに就て調べた所に據つて見ると、百人の中七十人以上この惡癖に陷つて居る。斯う云ふコドモは顏色が惡くなり、沈鬱になり、記憶力が衰へ、物に倦み易く、勉強が續かなくなる。のみならず、道德性の上にも惡い影響が現はれて來る。併しこれは親達も學校の教員も餘り氣に止めず、又取調べたり、言聞せたりしにくいので放置して置く。醫師も多分その爲であらうと推測しても、發育の時期に依て斯樣な事があるなどと言逃れるやうな場合もあるやうである。私は日本の兒童には何の位の割合にこの惡癖があるか確かな調べは分からぬが、若し西洋の兒童に於ける如く多數のものであるとすれば、これは決して等閑に附して置くべきことではない。適當の方法に依て家庭に於ても學校に於ても、その有害なることを説き聞かせて豫防し矯正することが必要であ

ると思ふ。

生齒困難に就て

醫學士高田逸一郎述（京都醫學雜誌第十三卷第四號）

生齒困難或は齒牙發生困難とは齒牙が齒齦を破りてその上に出現せんとする際に起る病的現象の總名なり。故に乳齒發生時のみならず、永久齒發生時にも、亦甚だ稀なる老後の齒牙發生時の場合にも、この現象は存すべきも、就中症狀の最も著しきは、心身の發育共に未だ充分ならずして、些少の障碍にも影響を受くることの大なる乳齒發生時なり。

乳齒發生の時期は、人種により、性により、又個人によりて甚しく遲速あり、即ち或は生れながらにして已に齒を有するものあり、又生後十四箇月にして始めて一齒を生ずるが如き者もあり、併し是等は例外にして、通常男性に於ては七、八箇月の頃、女性に於ては六、七箇月の頃に下列第一門齒の現出に始まり、二十乃至二十四箇月に下列第二臼齒の現出を以て此の時期を了る、而して一般に女性にありては男性に於けるよりも其期早しと云ふ。

本症は昔より記載せられ、種々の說ありて、全兒童の三分の一は本症の爲めに生後第二年の終り迄に死すとか、又三歲以下の兒童の死因の七%は本症にあり、などと稱せる人もありしが、今日に於ては、嘗て本症の症狀と看做されたる種々の徴候にも漸々制限を加へらるゝに至れり。

今日、生齒困難の症狀として擧げらるゝものは左の如し。

局所的症狀としては、口內炎、齒齦炎等あり、唾液分泌旺盛となり、多く涎を流し、又齒齦に瘙痒の感ある爲、屢々母の乳房を嚙み、口より泡を吹き、又屢々切齒し、絕えず口中に指を入れんとす、且つ甚しき場合には顎骨の潰敗することありと云ふ。

消化器及び呼吸器的症狀としては、僅かに吐乳、下

痢及び咳嗽あるのみ、而して最も多數なるは一般症狀なり。

一般症狀には不機嫌にして號泣し易く、且つ不安にして熟睡せず、食思不振にして、怒り易く、又驚き易く、絶えず發汗し、呻吟し、常に低度の發熱ありて、外力に對する抵抗力減退せるが故に、容易に罹病す、例へば風邪、腦膜炎、消化不良等而して屢〻痙攣を來し眼球上轉することあり、又面貌も變化すと云ふ。

生齒困難の症狀は多樣ありと雖も、略ぼ右の如きものにして、此等とても悉く本症に必要の症狀のみにはあらずして、反つて偶然時を同うして他の原因によりて誘起せらるゝものも、これに網羅せるが如き槪無きにあらず。

豫防法としては、齒冠既に齒齦面を破りて後、急に加療するも遲きが故に、豫め注意するを良とす。卽ちその以前既に局所の瘙痒を感じて、嬰兒屢〻齒齦を嚙み合はせ、又は乳房を嚙む等のことによりてこれを豫知し得るを以て、淸潔なる水又は微溫湯を以て能く其部を淸拭し、又は自ら口中を搔きむしること無からしめん爲め、爪を切り或は指先を布片にて包み置くべし。

療法は、昔は齒が齒齦を破る時に種々の症狀を起すものなりとの考より、生齒を容易ならしむる目的を以て、齒齦の亂刺又は切開等行はれたる時代ありしも、これは有害にして無效なり。又昔時は齒齦に種種の塗布料を施せり、例へば犬の乳及び兎の腦、牛酪及び百合の油、古き鮒の肉、蜂蜜、柑橘類の果汁。其他種々の祕密藥泰西に於て行はれ、又和書にも地黃、當歸、芍藥各二分、沈香、甘草、山藥各一分右何れも粉にし、絹に包み、振出し、切々用ふべし或は芎黃散、川芎、當歸、白芍、地黃、山藥各一匁、沈香二匁、甘草一匁、右細末とし、鹽湯にて飲ませもし、又齒莖に塗るべし、などゝ記載せるも、これ亦歷史的のものゝみ。

現今に於ては唯々淵默にして靜なる室に安坐せしめ

て、食物に注意し、「オドール」等の口内清涼劑又は過酸化水素水、或は重曹水等にて口内を清潔に保つを以て充分なりとす。或は炭酸「カルシウム」と炭酸「マグチシウム」粉末との混和物を用ゐ、或は硼酸「グリセリン」及び硼砂蜜等の齒齦塗布を推奬するものあれども、必要にはあらざるべきか、其他痙攣等の併發せる際に其等の對症療法を併用すべく、兼ねて嬰兒の體質如何によりて適宜に處置を取捨つべきこと勿論なり。

小學校兒童に掃除を課するの可否

帝國教育會初等教育調査部會にて研究調査したる結論は次の如きものなりと云へり。

第一　掃除を課するの利害

小學校兒童に掃除を課するの可否に關しては各種々の理由あれども、之れを要するに次の諸點に歸す。

(甲)可とする理由

1、掃除に慣れしめ清潔整頓の習慣を養ふこと

2、勤勞の自治及共同の精神を養ふこと

3、學校清潔法に關する經費を節約し得ること

(乙)不可とする理由

1、病毒傳染の虞ありて有害危險なりとすること

2、掃除を以て卑賤にして不必要なる作業となすこと

第二　掃除の可否に關する實際的考究

前項の理由を公平に考究するに、之を可とする理由中第一項及第二項は、兒童教育上大切なることにして、掃除を課せざれば之を養ひ得ずと云ふにあらされども、掃除が學校教育に於て、此等の目的を達するに最も適當なる機會だることは之を認めざるべからず。又第三項は此の問題を解決する主重要件にあらずと雖も、之れが學校經濟に及ぼす影響上決して閑却に附すべからざるなり。

之れを不可とする理由中第二項の理由は殆んど一顧の價値なきものなれども、第一項の理由につきて、掃除が衛生上兒童に有害危險なりとせば、絶對に之

れを禁止せざるべからず。然れども總ての掃除が有害危險なることは醫學者に於ても、實地教育者に於ても未だ確實に證明せざることなり。而して實際に於ては之れを豫防すべき道亦なきにあらず。

第三　掃除に伴ふ危險の豫防策

掃除に伴ふ危險は一概に是れを論ずべからず、(一)學校平素の清潔、(二)兒童發達の程度、(三)掃除の場所及び方法、(四)指導及び監督等の如何によりて之れを防止することを得べし。此等につきて主要なる點を擧ぐれば左の如し。

一、學校平素の清潔を保つこと

1、學校傳染病豫防を勵行すること
2、校舍内の採光通氣を完全にすること
3、廊道、便所、其他不潔に流れ易き場所を清潔にすること
4、校外校内、又は屋外屋内の履物を區別し特に屋内の履物に注意すること

二、兒童發達の程度に適する掃除を課すること。

1、尋一、二のものには各自の机、腰掛の掃除整頓に止むること
2、尋三、四のものには各自の机、腰掛及び教室の掃除整頓に止むること
3、尋五以上のものには各自の机、腰掛、教室及び其他適當の場所の掃除整頓を課すること
4、病弱にして危險の虞あるものには特に之を課せざることを得る事

三、掃除の方法を改良すること。

1、塵埃の飛散を豫防する方法を工夫すること
2、兒童をして塵埃を吸入せざる工夫をなさしむること
3、掃除後四肢を洗はしむる等適宜消毒に注意せしむること
4、掃除用具の輕便にして有效なるものを工夫すること

四、掃除の指導監督を充分にすること。

第四　結論

前項の豫防策を充分に講ずれば殆んど掃除に伴ふ危險を除去し得るものなれば、單に兒童に有害危險なりとの漠然なる理由の下に掃除の教育的價値を無視する能はざるものなり、依て掃除に伴ふ危險に對し適當なる豫防策を講じ、兒童發達の程度に從ひて適當の掃除を課することは教育上有效なることと認む。

家庭衛生

煤拂ひ

莊司秋次郎

古來我國の習慣として、夏は蟲干或は土用干と稱して、書籍、衣服其他の調度に風を通し、或は日光に曝し、年の暮には煤拂ひ或は煤掃きと唱へて家の内の大掃除をする習慣があつて、一種の年中行事の如くになつて居つた。これは恐らく極めて自然に起つた事であらうと思ふ。即ち自然の必要に迫まり、最も適當な自然の時を選み、最も適切な自然の方法を採るやうになつたものと思はれる。例へば土用干の如きは、梅雨の季節も過ぎ、その濕氣の多い所に漸次氣温が高くなつて來て、種々の黴菌類が時を得顏に、何から何まで繁殖する。然るに矢張その濕氣を防がんが爲に室々も閉鎖し勝ちで、箪笥、本箱、戸棚等も成るべく開けないやうにして居るが、なかなか充分防ぐことは困難である。斯樣な譯で、別に衛生と云ふ程の考が無くとも、じめ〳〵したり、黴が生えたりしてゐては、誰でも心持が惡い。丁度さういふ所に天候が一變して愈々夏の季節となり、益益日光が直射して、氣温も高くなり、土用に入る。そこで、家も藏も悉く開放して空氣と日光とを通流せしむると同時に、有ゆる書籍、衣服、調度の類を曝晒する。何れの點から見ても最も適當の時期、最も適當の方法である。これは自然に斯樣な良習慣が出來たのであるが、更に之に今日の衛生思想を以て、衛生學上の知識を應用して、自覺的に改良を加へるならば、眞に申分の無い良習慣である。

これと同じく年末の煤拂も亦、誠に潔よい行事である。これも只手拭を冠つて、煤竹を以て天井の隈をさら〳〵と撫て、好い心持だと濟すだけでは甚だ不充分である。充分衛生的に清潔法を行ふ考でなけれ

ばならぬ。氣溫低下し、空氣乾燥したる年末の寒空に、悉く戸障を開放し、疊を揚げ、天井の隅々より、床下に至るまで全然清掃して、家財道具を整頓し、家族一同身體壯健、心神潔淨にして新年を迎へむとするは、これより目出度い事はない、これ程希望に滿ちた行事は少なからうと思ふ。

斯樣に申せば、東京邊の人は、今更左樣な舊臭ひ行事を擔ぎ出さずとも、吾々は毎年春秋二回の大掃除を施行して居るから宜しいではないかと云ふであらう。

それは尤な次第である。併し實はこの新舊の大掃除を比較して、その長短を批評して見たいので、此の舊臭ひ行事を擔ぎ出した次第である。

先づ第一に、多少語弊は有るか知らぬが、法規とか命令とか云ふ事では、幾分か型はつくが、之に依て決して其理想に達することは出來ない。特に衛生上の事は、法令に依ては何の位もその目的を達し得るものではない。現に春秋二回の大掃除の如きも、實際何の位利益があつて、何の位害があるか考へものであると思ふ。斯樣な事を強制する位であるから、勿論御役所では、如何程の利益があり、如何程の損害があるか充分取調べがついて居るに相違ないと思ふが、先づ第一に日光消毒を應用せんとするには春よりも夏が適當である。寒冷と乾燥とを利用せんとするには秋よりも冬が適當である、この意味に於ては春秋の大掃除よりも、土用干と煤拂の時期の適當なことは明かである。それから日取りにしても土用干とか煤拂とか云へば、銘々その家の最も都合の好い日を選んで、行ふが、御役所から豫定期日の通達に預れば、如何なる事を差措いても其日に掃除をしなければならぬ、殊にその日が雨天なれば又何日に延びるか分からぬと云ふやうな譯で隨分迷惑を感ずる。又床板などを上げる必要の少しも無い處でも、或は塵埃などは少しもない處でも、掻廻はさねばならぬ。巡査さんが來て、さうせねば檢査濟と云ふ札

を渡さぬ、そして掃除をやり直せなどと指圖をされる。それから線の下に石灰を撒けと命ぜられるかと思ふと、今度は、石灰は濕氣を引いて宜しくないから撒くなと云はれる。斯樣な次第で、その間には幾多の矛盾した事が起つて來る。特に「ペスト」などが市内に蔓延した虞のある時に、各戸擧つて疊を打き、家中の塵埃を街路に掃出す。通行人は悉く之を吸ふ殆ど窒息しさうな有樣である。縱令窒息せずとも、此等無限の塵埃の中には結核菌、釀膿菌等は勿論、肺炎菌、「ペスト」菌の如き病原菌も混じて飛廻るのである。此の如く觀察して來ると、この命令的、強制的の春秋二回の大掃除なるものは、差引衞生上幾何の效果があるか分らぬ。

元來我國の人民は槪して潔癖の國民である。鼻拭と痰吐きと手拭を一緒に使つたり、小便を流しに棄てたりするやうな人種ではないのである。唯だ近年に至つて西洋の方は一般衞生的の知識が普及された爲に、漸く我國古來の良習慣の足りない所、即ち衞生的知識の足らなかつた點が明かになつたに過ぎぬのである。故に今更ら自分の家を清潔にせよなどと御上から命令されなければならぬ程の野蠻の國民ではない。唯だ合理的の清潔法、即ち今日の衞生學上の知識を土用干なり煤拂なりに應用することを敎へらるれば、それで澤山である。

土用干とか煤拂とか云ふことは、昔から我が國民の悅んで行ひ來つた事で、これは廢せと命ぜられてもなか〳〵止むまいと思ふ。而して衞生思想の高まるにつれて、自然この土用干にも煤拂にも合理的の清潔法が應用されつゝあるのである。要は只その知識をまう少し一般に普及さへすれば宜しいのである。これを顧みずして、只役所の便宜上春秋二回の大掃除を強制し、爲に却てこの深い意味のある、自然の良習慣を廢らす如きは、魚を求むるに蛇を與ふるものではなからうかと思はれる。

依て私は妄に當局の非を鳴らすものではないが、形式的に不都合を忍んで、いや〳〵ながら所謂大掃除

をするにしても、決してこれが爲に煤掃の行事を疎することなく、昔よりも一層衛生的の知識を應用して、充分の煤拂をなし、住居を清潔にした上にも一家擧つて心身を潔め、目出度く新年を迎ふる準備をせんことを希望するものである。私は只命令に服從する義務的、形式的の大掃除よりも、祝ひの意を含むで、自ら悦んで行ふ所の煤拂的清潔法を推奬するものである。

歳暮の贈答

祝儀、不祝儀、中元、歳暮互に物品の贈答を致しますことは交際上必要なことで、誠に情誼を厚くする一法に相違ありません。併し凡て儀式とか禮儀とか申しますことは、眞に情がこもればこそ貴いものでありますが、唯だ型ばかりの禮儀では、全く蛻の儀式で、徒らに弊害のみ多くなるものであります。所謂虚禮は行はぬ方が益であらうと思はれます。

贈答品の中でも殊に注意を要するものは飲食品である。暑中の贈答品に依て屡々急性の消化器病を起したと云ふ例は常に見聞する所でありますが、夏は夏だけに贈る人も受ける人も相當の注意を拂ひ、飲食品でも十分新鮮なるものを選び、受くる人も早速これを食し、或は直ちに調理致しますから、中毒などを起すのは全く怪我で、甚稀なことでありますけれども、歳暮の贈答品としての飲食品になると大にその趣を異にし、夏季よりも却つて過が多くあるまいかと思はれます。歳暮頃になりましては、夏とは違つて一般に飲食物に對する衛生的觀察が弛むで參りますので、品物を選む時にも、その選擇がおろそかになる、のみならず實際選擇が困難になります。例へば菓子とか魚類とかに致しましても、夏なれば少し古いものは、直ちに腐敗に傾き、その不良品たることが容易に分かりますけれども、冬季には急に腐敗することもなく、又これを鑑別ることも困難であります。斯樣な譯で、最初の品物が既に如何はしい

場合が少なくない。然るにこれを贈られた家では、餘り澤山であれば、他にお裾分をする。或は他家からも同じ物を贈られたと云ふので、少しでも日を經た方を餘所に廻はす。所が同じ季節に同じ意味の贈物であるから、何處の家でも同じやうな貰物が重なる、そこで只今申したと同じ理由で、それが家から家へ轉々して數軒も廻し物になることが多い。斯うなりますと、果物などでもバナナは黑くなり、林檎はふか〱になり、蜜柑は汁がなくなり、下敷になつた物は腐敗むと云ふわけで、愈々これでは餘所に上げることは出來ないと云ふので、初めて一度に子供衆や女中衆にまで分配される。そこでお腹が痛いとか、下痢したとか云ふとが始まります。菓子や果物は未だしもでありますが、魚類、鳥類、獸肉などになりますと、その危害はこれよりも甚しいのであります。其中でも魚類は先づ比較的容易に鑑別がつきますけれども、鴨とか山鳥とか雁などになりますと、餘程古くならねば、昨日捕れたのか半月前に捕れたのか、外觀上一寸見分けがつきません。羽毛を挘つて料理して見て初めて腐敗に傾いてゐることが分るやうな場合が隨分あります。

此の如き有樣では、果して禮か無禮か一寸分からなくなります。一體我國では無闇に飲食物を贈答する習慣がある。やれ今日はお彼岸だからお萩だ、お鮨だ、お團子だと作つて贈る、又同じ樣な物を作つて返禮する。その他餅であるとか、赤飯であるとか、何彼につけて絶えず飲食物を贈答して居る。その情誼は誠に結構な事でありますが、衛生上から見ると種々の危險が伴ひます。殊に今年の如く虎列剌などが流行する際には、甚だ迷惑な習慣であります。何れにしても、この飲食品贈答の習慣は、もう少し制限した方が可さゝうに思はれますので、恰も歲暮に際して所感を述べ、讀者諸姉の御一考を煩はす次第であります。

斷食療法の濫用（家庭新聞第十號）

家庭新聞は遠山博士の談なりとて、斷食療養に關し左の如く述べたり。

數日若しくは數十日間の斷食を試みて、偶〻其多年の頑疾が快癒に赴いたからと云つて、之を何人に應用しても過たず、常に良好の結果をのみ得るものと思ふのは間違ひである。

所謂饑餓療法は、決して新らしいものでも、又珍らしいものでもない、休息を與ふれば癒る病氣は幾らもある、慢性の胃腸病の如き、其一である。

人間は何も食はずに、唯水ばかり飲んで居ても、隨分長く生命を保ち得るもので大澤博士の實驗に依るも、優に三四十日間は保てる。

併し其間は絕對に安靜を守り、煩悶を避けねばならぬ、身體を動かしたり、煩悶したりすると、組織を消耗して、危險に陷る。

されば斷食などいふ事は、特殊の病氣に限り、而も醫師の指圖の下に、注意を深く行ふべきものであつて、物ずきに、若くは雷同的に試みるべきものではない、隨つて一般に推奬すべきものでは素よりない。

健康者が之を行へば、徒に心身を衰弱せしめ、肺、心臟の惡い者が、之を敢てすれば、病を增進せしめる、慢性の胃腸病と雖も、悉く之に適するとは限らぬ。

兎角近頃は極端を喜ぶ傾向がある、突飛な事を鼓吹して、其弊の及ぶ所も顧みない風あるのは嘆くべき事である。

食物の分量に關しても、暴飲暴食を戒むるのは宜しいが、頻りに小食を主唱する者がある、それも千年の齡を保つ鶴の胃の腑には食物が、少いといふ事から割出して、人間も食物は少い程長命すると云ふ半ば迷信から來て居るのである。

人間の身體は蒸氣機關と同樣、石炭を燃やさなければ運轉せぬ、吾人の食物はつまり其石炭である、燃料である、腦の働き、知識の發達、皆食物から來る。

大なる機關には多量の石炭を要する如く大に働かうとするには、相當の食物を攝らねばならぬ、食は少量に限る等と、決定する譯にはどうしても行かぬ。

雜報



○花の日會收益分配寄附

去る十一月三日立太子の御儀當日を以て擧行したる花の日會は、收支決算に於て總收入一萬二千二百七十六圓二十錢を示し、諸實費を差引き七千七十三圓八十三錢の純益を得たるが、その內六千五百圓を左記諸團體に寄附し、殘額は明年の準備費及び臨時費を充つることゝなれり。

▲五百圓(精神病者救治會)　五百圓(共立婦人育兒會)　千七百圓(東京市立特殊學校十校)　二百圓(萬年小學校後援會)　二百圓(双葉幼稚園)　三百圓(無料宿泊所)　三百圓(盲人技藝學校)　二百圓(前橋育兒會)　二百五十圓(白十字會)　百圓(全生病院)　五十圓(濟民協會)　二百圓(傳道義會)　百圓(下谷青年會)　五十圓(杉山鍼按學校)　三百圓(福田會)　百五十圓(慈愛館)　百圓(横濱市)　二百圓(同善小學校)　百二十圓(花の日會施療部設)等

○鐵道青年大會

鐵道從業の基督教徒より成れる鐵道青年會は其第八回大會を去る六日午後零時半より有樂座に開けり。來會者家族を交へて約千五百名、理事主計總監日疋俊亮氏の開會の辭に次いで常務理事益富政助氏の會務報告あり、それより前鐵道院總裁添田博士及び現總裁後藤男の演說、府知事、市長其他の祝辭ありて式を終り、餘興としては山崔の藝當、活動寫眞、有樂座一座の鐵道演劇等あり、四時閉會、この日階上廊下及び運動場には同會救濟部員の製作に係る靴、衣類、繪畫、寫眞等を陳列せり、尙ほ益富理事は會務報告の機會を利用して鐵道從業員の禁酒會設立を提議したり、其の理由は、過般東北の列車衝突が從事員の飮酒に原由するに鑑み、九州鐵道管理局從事員一萬七千名中八千七百名の禁酒會員を得たる前例に倣ふと云ふにありて、益富氏の此の動議は滿場一致を以て可決せられ、出席會員全部誓書を出して立所に會員となれり。

○南洋行看護婦

南洋の新領土ヤルート島守備隊の經營せる病院には武生千歳(三〇)、大屋蔦子(二七)の兩看護婦勤務しゐたるが、右兩名は、その契約期限滿了せるより、その後任者を選定中の所、東京市施療院の高橋加與子(三四)、戸崎光子(二四)の兩看護婦その選に當り、去る六日出發赴任せり。

○牡蠣養殖有望

東京府にては、本年度より品川沖第一第七臺場附近に於て試驗的に牡蠣の養殖を始めたるに經過良く非常に發育したるを以て、更に農事試驗場其他にて栽培せる蔬菜、果實、飼育したる鷄、鷄卵等數十種を原料として本月中旬府會議員一同を招待、試食會を開く筈なり、農商課の前田技師は『牡蠣は臺場附近に以前あつた天然のを土臺とし人工的に養殖せしめたのである、陸上と違ひ天然の支配を受けることが多いから内々心配してゐたが幸ひにして成功した、試食物は凡て府の手によつて拵へたものを供給する筈で、中には罐詰類、ジヤム、大島、八丈島、三宅島等のバタもある』と語れりと。

○女子藥劑師

今回文部省にて施行されたる藥劑師試驗に合格したる百二十一名中女子は左の如し。

千葉	原田たみ(十九)
東京	井上糸子(十九)
靜岡	高橋菊枝(二〇)
福岡	徳島しげ(二〇)
東京	菅野らい(二五)
同	竹田キン(二二)
同	村上トク(二一)
群馬	川原ナカ(二二)
鹿兒島	桑原マル(二三)
靜岡	佐藤ヤヘ(二四)

○全國の「コレラ」及「ペスト」

五日正午より六日正午までの全國虎疫新患者は大阪、福岡、大分、神奈川の一府三縣下に於て五名發生し、「ペスト」は四日市に三名、愛知縣愛知町に一名の新患者發生し、有菌鼠も四日市より一頭、愛知

町より一頭發見し、容易に終熄の模様無しと。

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

去る二日午後一時より共立女子職業學校内に十二月例會を開き、醫學博士瀬川昌世氏を講師とし「小兒の體質」と題せる有益なる講話ありたり、筆記は追て本誌上に掲載せらるべし。因に當日出席の役員は左の如くなりき。(出席順)

鳩山春子　濱尾作子　緒方悦子
山口貞子　近藤澁子　川村清子
宮木樂子　長谷川仲子　天野たき子
三浦數子　吉岡彌生子　丹波貞子

○宮下評議員逝去

本會評議員宮下咲子刀自は去月十三日逝去せられたり、本會は同姉の本會に對する功勢を永く忘るゝことなかるべし、茲に謹で哀悼の意を表す。

○入會者

○事務所申込み

京城府明治町二丁目五十七　通常　矢能イマ子

○藤村晴子紹介

東京市外東大久保百五十六　通常　藤村貴美子
大連市北大山通り四番地三ノ四號　通常　藤村成子
相州藤澤鵠沼　通常　安倍恭子

○事務所申込み

麹町區下二番町六十七　通常　西村喜代子

○轉居

陸前より横須賀市中里三〇二へ　佐藤貞子
本郷より四谷區尾張町七へ　佐藤みさほ
芝區より府下上大崎四七一へ　酒井邦子
相州より小石川區指ヶ谷町七十六へ　村井たか子
荏原郡より京橋區南鍋町一の一へ　佐藤運雄
栃木縣より栃木縣那須郡馬頭町字新町小針方へ　野中ノブ子
廣島市より備後國因島土生村字長崎へ　寺田豊作

婦人衛生雜誌（自第三一四號至第三二五號）目次

婦人衛生雜誌（自第三一四號 至第三一九號）目次

育兒

家庭衞生

抄錄

雜報

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山木多德子
同 松平芳子
評議員 入澤常子
同 濱田捨子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 武田貞子
同 男爵夫人 南部殿子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 近藤憲子
同 天野多喜子
同 菊池峯子
同 宮本樂子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 三浦敬子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 西舛子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 小松いさ子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三册（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二册（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正五年十二月十七日印刷
大正五年十二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 菲司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市本郷區駒込林町二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本宮士町 文明館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本宮士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衞生雜誌第三百二十五號（大正十五年十二月二十日發行）
明治四十三年十二月二日第三種郵便物認可（每月一回廿日發行）